

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日： 年 月 日

事業所名：なでしこデイサービスセンター

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	セラピストごとに訓練室が確保されている。多機能型事業所のため、共有スペースは他の事業と折り合いをつけながら使用している。身体を動かす活動や集団療育を実施する場合は、公共施設を利用している。	はい:100 どちらともいえない:8 いいえ:0 わからない:2 ○個々に訓練の部屋が分れていてわかりやすいが、身体を使う際は少し狭く思う。 ○体を動かす活動の時も広々とスペースが取れていると思う。	粗大運動や集団療育を行う場合は、広い訓練スペースの確保が必要なので、公共施設等が利用できるように調整する。
	2 職員の適切な配置	基準は2名だが、4名の児童指導員を配置。公認心理師3名、臨床心理士1名と専門性も高い。以前から、言語や作業の訓練も受けたいとの希望はあるが、収支バランスを考えると、4名以上の常勤職員を配置することは難しい。言語やコミュニケーションにとって心理面の発達が大事だという説明が保護者にできていないため、言語訓練を受けたいという希望がでている可能性がある。	はい:90 どちらともいえない:6 いいえ:2 わからない:10 無回答:2 ○専門性は高いと思う。 ○1対1で子どものペースに合わせて訓練できている。 ○言語や作業の訓練も受けたい。 ○作業療法の選択もほしい。心理と作業の両方から見てもらいたい。 ○土曜日に利用しているが、少し手が足りていないのかなと感じることがある。(バタバタしている時がある)	作業療法士はH31.4月採用予定。 土曜日は、電話対応に支障が出ないよう、職員のシフトや訓練予約について調整できるようにする。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	各訓練室やトイレ等の入り口には写真やイラストを表示し、視覚的にわかりやすい工夫をしている。館内や訓練室内はバリアフリーだが、訓練室の入り口の1つは約10cmの段差がある。	はい:103 どちらともいえない:2 いいえ:0 わからない:4 無回答:1	手洗いの動線がわかるイラストを提示し、今日がいつかがわかるカレンダーを設置したり等、子どもの特性に応じた支援を意識し、気づいたことが具体化できるようにする。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	館内に次亜塩素酸を噴霧できる加湿空気清浄機を4台設置し、除菌・消臭を行っている。業務終了後、毎日、掃除・消毒を実施している。セラピストごとに訓練室が確保され、部屋の管理は担当者に任されているため訓練室の環境には個人差がある。	はい:103 どちらともいえない:6 いいえ:0 わからない:1 ○床に敷いてあるマットのシミが気になる。 ○清潔面に関しては直前に使用されていた場合は仕方ないと思うので、どちらとも言えない。 ○気が散りそうな余計な物がなく、訓練に集中しやすい環境だと感じる。	マットの洗浄は定期的実施する。 柱の角が危ないので、ぶつかり防止対策と安全対策を検討する。 清掃作業に、障がい・高齢者の短時間雇用や、ボランティアの協力を検討する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	毎月、事業所内で業務に関する職員会議を開催し、業務改善について検討している。検討した内容は、必要があれば法人内の管理職会議で報告・検討している。 年度末には事業計画の検証を行い、次年度の事業計画に反映している。		引き続き、毎月職員会議を開催し、業務改善について検討する。検討内容によっては、施設長等の幹部職員にも参画を依頼し、検討内容が迅速に業務改善に結びつくようにする。 議事録はメール配信する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施していない。		第三者委員会の設置について検討する。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	兵庫県社会福祉協議会や、自立支援協議会等の関係機関が実施する研修を、必要に応じて受講している。受講内容は口頭で伝えるか、資料を回覧する等し、職場内で研修内容を共有している。 管理職が認めた研修に要した費用は、事業所が負担している。		次年度は個人研修計画に基づき、積極的に研修受講できるように予算を確保する。積極的に研修を受講することで、訓練内容の充実にもつながる。 受講した研修内容を職場内で共有し、訓練内容の充実につながったかどうかを検証できるしくみをつくる。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	サービス利用に際しては、インテーク面接を実施。インテークの情報、相談支援専門員からの情報、発達検査の結果等を基に、事業所内でケース会議を実施し、支援の方向性を協議している。	はい:103 どちらともいえない:3 いいえ:0 わからない:2 無回答:2 ○相談した内容をすぐに訓練に取り入れてもらえるので助かっている。 ○日常生活で保護者や子どもが困っていることを改善する支援を考えてくれる。 ○担当の先生も細かく話を聞いてくれて、次の課題も教えてくれる。	保護者に訓練の意図が明確に伝わるように工夫する。 月別に計画更新者リストを作成し、計画更新が滞りなく実施できるようにする。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	平常は、個別訓練のみ実施。 夏休み(6回)、冬休み(3回)に小学生を対象に、3~5人程度の集団療育を実施しているが、必要があっても、計画に集団療育を盛り込めていないケースがある。		一日当たりの定員数がネックになるが、夏休み・冬休みに集団療育が継続できるように検討する。 ケースごとに集団療育の必要性を検討し、個別支援計画に盛り込み、計画に基づいて訓練ができるようにする。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	支援内容については、何を目的に何をを使って、どのような訓練をするのか、できるだけ具体的に記述し、訓練の都度、保護者に説明するようにしている。	はい:102 どちらともいえない:2 いいえ:1 わからない:3 無回答:2	H30年9月に県から提示された計画書式例に、順次移行していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	訓練回数は必要に応じて増減している。できないことに注目するのではなく、できることに注目し、できた喜びを新しい課題に取り組む力に変えられるよう支援している。	はい:99 どちらともいえない:4 いいえ:0 わからない:6 無回答:1 ○本人的にあきないようにしてもらっている。 ○子どもの好きなものを取り入れてくれている。 ○親の目線からは、出来ないところが出来るようにしていきたいのだが、「ギリギリ出来る」と言う支援方法をしている。本人はギリギリ出来る事なので、自信につながっているよう。親としては、少し物足りない気もするが、本人は楽しく来れているのでOKかな。(こういうやり方ということも説明があった) ○デイサービスの予約がいっぱいで、取りにくいことが多い。	訓練回数が減ったり、予約が取りにくい状況については、その理由を丁寧に説明する。保護者がシフト勤務の場合等は、勤務予定が決まり次第事前予約が取れるようにする。 月1回の訓練が妥当な子どもと、月2回以上必要な子どもの見極め方について、事業所内で検討・共有する。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	個別訓練なので、基本的に活動プログラムは担当者が立案し、場合によっては訓練に使う道具等も手作りしている。事業所内でケースの共有はできているので、プログラムの立案に際しては、職員間でアイデアを出し、アドバイスしたりする。集団療育のプログラムはチーム全体で検討している。	/	○集団療育を実施する前には、職員全体で活動プログラムを検討しているが、個別訓練でも同様にすすめられるよう検討する。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	土曜日は児童発達支援、祭日は放課後等デイサービスに限定して、サービス提供している。 夏休み(6回)、冬休み(3回)に小学生を対象に、3~5人程度のグループ療育を実施している。 子どもや保護者の評価も高く、「また参加したい」と言う声が多い。	/	引き続き、土曜日は児童発達支援、祭日は放課後等デイサービスに限定して、サービス提供する。 夏休み、冬休みに集団療育が継続実施できるよう検討する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
援 の 提 供 （ 続 き ）	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	個別訓練終了後、保護者と20分程度訓練の振り返りをし、次回訓練時の課題を確認している。継続して取り組む必要がある課題以外は、毎回工夫がされている。	はい:95 どちらともいえない:10 いいえ:0 わからない:5 ○次の課題をよく考えてくれていて、とても有難い。 ○少しずつ変化をつけ、子どもが楽しく訓練できるように考えてくれている。 ○色んな訓練があり、子どもが楽しく利用している。 ○子どもがいつも楽しみにしている。 ○子どもに合ったプログラムができています。	保護者との振り返りの中で確認できた課題等が訓練に反映されるようにする。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	生活介護のフロアーに入ってしまう可能性がある子どもの訓練時間は、安全面を考慮しパーテーションを設置するため、施設内の朝礼で確認している。 始業前に全職員で、前日と当日のケースについて報告や確認を実施している。 個別訓練に使用する訓練道具がかぶってしまい、訓練中に慌てることがある。		訓練で使用する訓練道具がかぶらないように確認を徹底する。 パーテーションが必要な時間帯は毎朝事業所内で共有し、安全確保できるようにする。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後、支援経過を記録するとともに、反省点や改善点について話し合っている。特に、情報共有が必要なケースについては、翌日の始業前の打ち合わせ時に報告・記録している。		引き続き、支援経過については当日に記録して情報を整理し、始業前の打ち合わせで報告する。 特に気になるケースについては、支援終了後に情報共有する場を設定し、記録する。
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	支援経過は、訓練を実施した日に記録している。記録時には、訓練内容を検証・改善する視点を意識し、次回訓練内容や目的も記載している。		支援経過は訓練当日に記録する。記録には、来所時の様子、訓練の状況、子どもや保護者が話したこと、次回訓練内容や目的等を具体的に記載し、適切な支援につながるようにする。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	基本的に6か月ごとにモニタリングを実施し、支援計画を作成している。必要があれば、適宜モニタリングを実施し、支援計画も変更している。		定期的にモニタリングを実施し、子どもの成長や発達に応じて計画内容を見直し、適切な支援が行えるようにする。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	相談支援専門員から要請があれば、児童発達支援管理責任者、もしくは訓練担当者が参画している。		訓練の担当者は、サービス担当者会議に参画できるよう日程調整する。もし、参画出来ない場合は、経過や今後の訓練の方向性をまとめた資料を作成し、できるだけ児童発達支援管理責任者が参画できるように日程調整する。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者の同意があれば、教員等が訓練に同席することは可能。要請があれば、支援経過や子どもの特性に応じた支援方法等を書面で情報提供している。 開所から2年が経過していても、保育所等を訪問した際に、「どんな所で、何をしているのか?」と説明を求められることがある。	〇何かの時、学校まで来てくれるので助かっている。	ホームページを開設を検討し、事業所の概要や支援内容が周知できるようにする。 年度当初には、関係機関にパンフレットを配布する等、サービス内容等を周知する。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	小学生までの個別訓練を実施しているため、障害福祉サービス事業所からの問い合わせはなく、当事業所から情報提供したことはない。		障害福祉サービス事業所から問い合わせがあれば、本人の同意を得て情報提供する。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	島内に児童発達支援センターは設置されていない。自立支援協議会等の関係機関が実施する研修案内は事業所内で回覧し、希望者が受講できるようにしている。		関係機関が実施する研修案内は職場内で回覧し、希望者が受講できるように環境を整える。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	実施していない。	はい:35 どちらともいえない:14 いいえ:12 わからない:47 無回答:2 ○個別の訓練のため、他の子どもと活動する機会がない。 ○小学校に通っているの、みんなと楽しく過ごせている。 ○地区の子ども会などがあり、上級生とも交流がある。	社会福祉協議会等で実施しているイベント等の情報を周知する。
	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	実施していない。		H32年度以降にイベントの開催について検討する。
1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	新規利用者には、契約時の重要事項説明の際に書面で示しながら、支援内容や利用料金等について説明している。 利用料金一覧表を事業所内掲示板に掲示している。	はい:102 どちらともいえない:7 いいえ:0 わからない:1 ○送られてくる請求書の内容が細かく分かれていて、今あまり理解できていない。 ○利用者負担は聞いた時は答えてくれるが、その他は説明がない。	1日の訓練単価等、利用者からの質問に、職員全員が答えられるようにしておく。 保護者が利用料金一覧表を自由に持ち帰れるようにする。 料金体系が変更になった場合は、書面で個々に通知する。
	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	20分程度の訓練の振り返りの時間で説明することが多いので、説明に十分な時間を取れない場合もある。	はい:103 どちらともいえない:4 いいえ:0 わからない:3 ○その日の訓練内容については教えてくれるが、これからについても教えてもらえたらと思う。	保護者にわかりやすい説明を心がけるとともに、保護者の同意を得て支援を行う。
	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	以前からの懸案事項だが、ペアレント・トレーニングに取り組むことができていない。 訓練中に保護者が子どもに対応する様子を見て気づいたことや、保護者から対応について相談があった際には、心理士等が適時アドバイスをしている。	はい:71 どちらともいえない:13 いいえ:4 わからない:22 ○褒め方など、とても参考になり助かっている。 ○ペアレント・トレーニングの機会があれば、是非参加したい。 ○いつも相談にのってもらい、少しずつ親も子どもも変わってきた。	利用者のニーズに対応できるものの一つだと言えるが、保護者会も兼ねて、ペアレント・トレーニング講座を計画的に実施するかどうかについて今後検討する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責・連携支援	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	個別訓練終了後、毎回20分程度訓練の振り返りをする時間を確保している。その際、子どもの現状や課題を伝えている。	はい:105 どちらともいえない:2 いいえ:0 わからない:3 ○何でも話せ、また聞きやすい。 ○子どもの発達のことに関してきっちり知ってもらえている。 ○訓練の後に話す機会があるので、相談しやすい。	訓練中に気づいたことは、その都度保護者にフィードバックする。 アドバイスの仕方や接し方等、具体的な方法でわかりやすく伝える技術を習得できるような研修が受講できるようにする。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	個別訓練終了後、毎回20分程度訓練の振り返りをする時間を確保している。その際、子育てに関する悩みには、適宜、心理士等がアドバイスをしている。 希望があれば、別に時間を取って事業所内相談を実施している。	はい:86 どちらともいえない:10 いいえ:4 わからない:8 無回答:1 ○何でも話せ、また聞きやすい。 ○訓練後に家や園での様子を話し、どんな風に接したり声かけしたらよいか、アドバイスをもらえるので助かる。育児に対して非常に役立っている。 ○「日頃から」ということはないが、支援を利用した時は、お互い話し合いはしっかりできている。 ○訓練後の話だけでは短く、親も仕事で忙しいので、どのようにしたら良いのかわからない。 ○利用している回数が少ないので仕方ないと思う。	家庭連携加算、事業所内相談支援加算を周知し、サービス活用できるよう検討する。 訓練終了後、保護者と話す時間は、児童指導員からの訓練のフィードバックに偏らず、保護者からの相談時間も確保する。 保護者は何をすればよいのか書面で示し、必要があればその結果を記録してもらう等、保護者に対する助言を具体化する。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施していない。 来年度は、保護者同士の顔つなぎができる場として「お茶会」の開催を予定している。	はい:17 どちらともいえない:14 いいえ:30 わからない:47 無回答:2 ○親との交流があればいいなと思う。 ○行ったことがないのでわからない。 ○こちらから尋ねたことがない。	平成31年度は保護者を対象としたお茶会を、年1回以上開催する予定。 親の会の定期的な開催について検討する。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	利用契約時の重要事項説明の際に、苦情窓口について説明をしている。 苦情対応マニュアルを策定し、事務所内の常時確認できる場所に設置している。	はい:45 どちらともいえない:12 いいえ:1 わからない:52 ○苦情もなく、聞いたこともない。 ○苦情を伝えたことがないのでわからない。	苦情対応マニュアルに沿って迅速に対応する。 苦情報告書を法人内で共有し、事業所改善の結び付けられるようにする。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	訓練終了後に、子どもや保護者と話し合う時間を設けている。 子どもの特性に応じた意思疎通や情報伝達の方法を保護者や相談支援専門員等の関係機関に確認し、写真やイラスト、文字等を使いながら、意思確認や情報伝達ができるように努めている。	はい:91 どちらともいえない:7 いいえ:0 わからない:12 ○訓練後の話の時に細かく話し合いはできている。	引き続き、話し合う時間を確保し、子どもや保護者とスムーズに意思疎通や情報伝達ができるように努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	実施していない。	はい:23 どちらともいえない:16 いいえ:12 わからない:59 ○ホームページは見たことがない。機会があれば見てみる。 ○どこで発信しているのかわからない。	H31年度にはホームページを開設できるよう検討する。場合によっては、facebookのページ作成を検討する。 職員体制の変更等、サービス内容変更の都度、パンフレットを最新にし、保護者に周知できる環境を整える。
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	不要になった個人情報が含まれる書面は、シュレッダーで処理している。 個人ファイルは鍵のかかるロッカーに保管し、個人名が人目に触れないようにしている。 個人情報が含まれる書類は、原則手渡しか郵送。やむを得ずFAX送信する場合は、名前が判別できないように伏字にしている。	はい:94 どちらともいえない:4 いいえ:1 わからない:11 ○今のところ何も問題はない。	やむを得ず個人ファイルを外部に持ち出す場合は管理者に報告し、帰社後元の場所に戻したことも報告する。
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル、感染症(インフルエンザ、ノロウイルス)マニュアルは策定し、事務所内の常時確認できる場所に設置している。防犯マニュアルは現在策定中。 職員は出勤時等には手洗消毒を実施している。 保護者へは、11月に感染予防に関する通知を書面で配付し、施設内にも掲示している。利用者には玄関から手洗い場までの動線等をイラストで提示し、手洗いが励行できるように努めている。	はい:51 どちらともいえない:17 いいえ:8 わからない:34 ○感染予防に力を入れていると思う。 ○もう一度確認しておきたい。 ○あまり意識していなかった。	各マニュアルについては定期的に職員間で共有し、適切に対応できるようにする。 職員の手洗い・消毒・うがいの励行等、感染予防を徹底する。 各取り組みについて、保護者へも周知していく。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	実施していない。 年1回、火災報知機の業者点検は実施している。 個別訓練時に地震や火事等が発生した際、実際にどんな動きをすればいいのか、適切に対応できるのか職員は不安を感じている。	はい:17 どちらともいえない:16 いいえ:14 わからない:63 ○個別の訓練なので、避難訓練は参加したことがない。 ○避難訓練などが行われているのかわからない。 ○あまり意識していなかった。	発災時の初期対応等について、職員間会議で検討し、法人全体で共有できるようにする。 利用者全員が訓練に参加するのは難しいが、発災時の対応についてはマニュアルを作成・配布し、説明を行う。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	研修会への参加を奨励し、資料は回覧する等、職場内で研修内容を共有している。		事業所内研修だけではなく、関係機関が実施する研修を積極的に受講する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価(回答者:110名)	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
心	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	保護者同伴通所なので、対応については保護者に確認している。 パニック時の対応について職員は習熟しており、現時点で身体拘束を行ったことはない。	パニックによる身体への危険性等が生じ、身体拘束の必要性が生じた場合は、子どもや保護者への説明をし必ず同意を得る。その経過についても記録する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	おやつ(市販商品)提供は行っているが、食事提供は行っていない。 インテーク時に、食物アレルギーの種類や対応について確認している。	おやつ(市販商品)の成分について確認し、提供の際には、保護者にアレルギーについて再確認する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	気づいたことはその都度、管理者等に報告し、職場内で共有し、事故に結びつかないように注意している。ヒヤリハット報告書はあるが、ヒヤリハットとして記録したものはない。 事故報告書はあるが、事業所内で共有するまではできていない。	ヒヤリハット事例集を作成し、事業所内で共有する。また、事故報告以外に、ヒヤリハットが起きた場合は、報告書を作成し、事業所内で共有できるようにする。